

「事業名：福島県浜通り産米の『食と農の特性』の明確化と地域・食育振興」 2019年度補助事業の実績・成果

福島大学

連携市町村：南相馬市・双葉地方八町村(広野町・楡葉町・富岡町・川内村・大熊町・双葉町・浪江町・葛尾村)・飯館村

連携市町村との協定締結日：平成18年11月29日(南相馬市)、平成24年1月7日(双葉地方八町村)、平成29年4月5日(飯館村)

現地拠点：楡葉町 双葉郡楡葉町下小塙麦入31 楡葉まなび館内 南相馬市 南相馬市原町区旭町1-8 みなみそうま復興大学内
川内村 双葉郡川内村上川内早渡11-24 川内村役場内

事業のポイント

震災・原発事故以降の福島県産米の価格・ブランド力等の低下、除染水田における収量の不安定さに加え、従来から指摘されている浜通り地域産米の低調な品質・食味評価を改善する。まず、米のデンプン等の蓄積構造から品質・食味の定常化と向上に必要な要因を解明する。つぎに、米の品質と食味等を科学的に明らかにし、より高品質・良食味化に必要な栽培技術に反映させる。

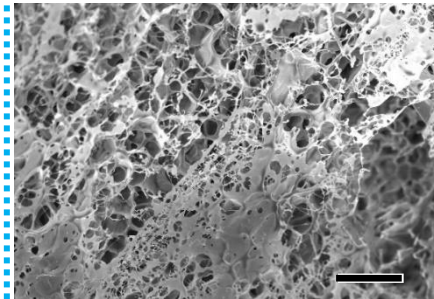
以上より、浜通り地域産米の安全と安心を確認し市場や販売に資する情報を提供する。また、成果を浜通りをはじめ福島県内の小・中・高校等に提供し、米生産、品質・食味の重要性、食生活の基本的スタイルの確保の大切さなどを教授する。

今年度の活動実績

1. 浜通り地域・福島県産の米の品質・食味評価結果の披瀝と栽培制御技術の提供・展開(農業従事者・市民・団体等を対象)：川内村、南相馬市、白河市、JA福島
2. 浜通り地域・福島県産の米の品質・食味等を生徒・児童等に教授(小中高校等を対象)：二本松市、南相馬市、広野町
3. 国際学会・学協会等での成果発表：中国天津市(国会会議[International Symposium on Development of Xiaozhan Rice and Improvement of Rice Quality and Palatability])、日本作物学会(鳥取大学)、日本水稲品質・食味研究会(岡山大学)
4. 浜通り地域産の米・水田土壌等の材料および情報収集：川内村、南相馬市、葛尾村、楡葉町、大熊町
5. 自治体、農家と共同実施する水稲の高品質・良食味生産に関するプロジェクトを開始し、栽培環境の分析を実施した：南相馬市

今年度の成果

1. 浜通り地域の営農再開水田土壌は放射線濃度が低く有機物・養分含量は十分であり、水稲の生育が十分に確保できることを確認した。また、浜通り産米は糊化特性等の点で高品質・良食味であることを明示した。データを今後も増やして蓄積し、浜通り産米の「食と農の特性」を普遍的・体系的に明らかにしていく。
2. 浜通り産米の「食と農の特性」を、浜通りの農業従事者・市民に品質・食味評価の結果とともに放射能対策を発表し情報・意見交換を行い、栽培制御技術等を教示した。同様に生徒・児童等にも模擬授業を通して品質・食味評価の結果を理科の内容とともに解説した。次年度以降も継続して地域への情報提供および地元農産物の正しい知識の認識を深めてもらう場を提供していく。



川内村産コシヒカリの炊飯米の表面(走査電子顕微鏡写真)



広野小学校での模擬授業